

ようこそ所長室へ

開港50周年記念事業に向けて、近況報告

平成28年の台風1号発生は観測史上2番目に遅い7月3日。にもかかわらず、台風16号で本年6つ目の上陸は昭和26年からの観測史上二位タイ、8月中の4つの上陸は過去最多とのこと。台風シーズンを迎え、職員一同で万全の体制を整えているところです。

堀込港湾の田子の浦港が面する海岸は、富士川から供給される砂利が波の力で運ばれて形成されたもので、台風がもたらす大きな波は、一度に大量の砂利を港口に埋塞させることがあります。台風が過ぎ去った後にも大型船が問題なく入港出来るか、職員が直営で測深するなど港湾管理事務所ならではの業務を抱え、これからも気の抜けない時期が続きます。

さて、昭和41年4月の関税法による開港から今年50年を迎える田子の浦港ですが、11月10日からの記念事業の準備も着々と進んでおります。田子の浦港には初めてとなる帆船「日本丸」の寄港による様々なイベントが企画されており、多くの皆様にご来訪いただき、本港の更なる発展の契機になることを期待しているところです。

一方で、昭和41年の11月1日には、旧富士市・旧吉原市・旧鷹岡町が合併して新市が誕生したことから、富士市も本年市制施行50周年を迎えます。開港記念事業は、市制50周年事業と連携しており、皆様とともにオール富士市で50周年を祝いましょう！

昭和33年に始まった田子の浦港の開発は、当時の2市1町の広域都市計画に位置付けられ推進されました。合併による新富士市の誕生は、田子の浦港を中心とする臨海部総合開発が経済面や社会面から多大に影響を及ぼしたことは、過言ではないと思っています。

地域の暮らしと産業を支える国際港として、富士市の発展とともに歩みつづけ50年を迎えた田子の浦港ですが、利用企業や産業の高度化から港を取巻く環境は大きく変化しております。

“未来の地域づくり”に向け、関係者皆様の声をしっかりと捉え、「安全で、使いやすく、親しみのある」みなとづくりを進め、田子の浦港の使命を果たしてまいりたく考えておりますので、皆様からのご支援やご協力をいただきますよう宜しくお願いします。

平成28年9月
静岡県田子の浦港管理事務所
うめばら ただし
所長 梅原 正